

特集

ふるさとの人びとを結ぶ伝統行事とまつり —平成25年度の「茗溪賞」受賞者の中から—

目次

- グラビア…… 01～02
- 特集 ふるさとの人びとを結ぶ伝統行事とまつり …… 03～10
- 大学は今 …… 11
- 平成25年度 筑波大学大学院生 茗溪賞受賞者と活動テーマ …… 12～13
- 筑波大学芸術専門学群学生・大学院生 優秀作品受賞者と作品名 …… 12
- 第13回「顕彰」候補者の推薦依頼について …… 12
- 第18回 茗溪・筑波グランドフェスティバル開催 真田 久 …… 14～15
- 平成26・27年度 一般社団法人 茗溪会 代議員一覧 …… 16
- 一般社団法人 茗溪会(第三回) 平成26年度定時総会開催のお知らせ …… 16
- 平成26年度一般社団法人 茗溪会 公益・共益・広報等 年間事業計画(案) …… 17
- 茗溪・東西南北 …… 18
- 茗溪学園だより …… 19
- 季刊誌「茗溪」夏号への誌上名刺交換掲載ご協力をお願い …… 20
- 平成26年度『茗溪フェロー』ご協力をお願い …… 20
- 平成25年度茗溪フェロー協力者ご芳名 …… 21
- 桐の葉のつどい …… 22
- 第29回教職受験対策研修会から …… 23
- 追悼録……24 ■ 本部だより …… 25 ■ 編集後記 …… 25

茗溪



春

2014

平成26年

no.1081



筑波大学病院新棟12階から見た平砂宿舍付近の桜



日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

ユーハイム®

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考えた食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビルレジ
TEL.03-5784-8853 (代表) FAX.03-5784-8842

KAIT

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

〈4つのスーパーサイエンス特別専攻〉

- 環境エネルギー
- 生命科学
- ICTスペシャリスト
- 次世代自動車開発

2014年度
4月新設

科学的センスとクリエイティブな実践力を身につけた
理数系教員を養成する

STC サイエンス・ティーチャー
養成コース
SCIENCE TEACHER COURSE

神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

理事長 中部 謙一郎
理事 河野 隆二(S47農)
顧問 清水 進一(S43理数) (神奈川茗溪会 会長)
監査室 矢野 正人(S53院修農) (同 事務局長)

工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
[管理栄養士養成課程]

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科



江田理事長から永田学長に
援助金の贈呈

第18回 茗溪・筑波 グランド フェスティバル

(参照 P.14 ~ 15)



テーマの「輪」の
文字の前で挨拶する
清水副学長



宣揚歌「桐の葉」の合唱



◆竹中 大悟 (芸術専門学群)
彫塑「Iimare」(いる まーれ)



筑波大学ときめき太鼓塾の演奏

平成 25 年度 茗溪賞 芸術部門作品 (参照 P.12)

◆福山 菜穂子 (芸術専門学群)
クラフト領域「ある日のこと」

◆笹岡 るり (人間総合科学研究科前期芸術専攻)
洋画「呼応する記憶」



第29回教職受験対策研修会から (参照P.23)



講師 佐藤徹氏



講師 清水進一氏



相馬中村神社



全線開通しない相馬駅
(右の人物は代行バスのドライバー)



大震災後の松川浦の倒木の跡



ふるさとの人びとを 結ぶ 伝統行事とまつり

(参照P.3~10)

ゆいまつりを楽しむ参加者たち



特集 ふるさとの人びとを結ぶ伝統行事とまつり —平成25年度の「茗溪賞」受賞者の中から—

茗溪会は、平成14年度に茗溪創基130周年を記念し、公益事業の一環として、社会・地域・人びとのために社会貢献活動や人材育成に取り組んでいる個人や団体を顕彰してまいりました。

今年度は、11月25日(月) 東京・茗荷谷の茗溪会館に個人・団体各5組の皆さんにお集まりいただいて顕彰式と祝賀会を行いました。

顕彰式では、茗溪会の江田昌佑理事長からそれぞれの方がたに「茗溪賞」をお渡しし、そのあと開かれた祝賀会では顕彰された方がたから「活動を続ける楽しさ」や「苦労したこと」などが披露されました。

今回の特集は、今まで伝えられてきた“ふるさと”、新しく創ろうとする“ふるさと”の、伝承と創造に努める次の2件を紹介します。

まず、東日本大震災で大きな被害を受けながらも「伝統行事を絶やしてはならない」という思いから、千年を超える歴史を持つ「相馬野馬追」行事に欠かせない鎧の修復等に取り組んでいる甲冑師の橋 斌(さとし)氏と満(みちる)氏兄弟。また、“まつり”を通して、つくば市に住む人たちが楽しさを分かち合うことで一つになり、住みよい街を創ろうと、“ふるさとつくばゆいまつり”という催しを行っている筑波大学の「ゆいまつり実行委員会」の皆さんを訪ねました。

伝統行事「相馬野馬追」を支え続ける

甲冑師 橋 斌・橋 満兄弟

相馬野馬追の里

—相馬市—を訪ねる

野馬追の里・相馬市は福島県の沿岸部、宮城県と境を接するところにあります。

ここは2011年3月11日の東日本大震災で大きな被害を受けました。

仙台市から相馬市までは高速バスでおよそ1時間半。相馬市に近づくにつれ、車窓から見える海岸には、かつてそこに暮らしていた人の家はほとんど見られず、いままも復旧作業のクレーン車が動いている風景があるばかりです。

相馬市では、大震災の直後から自衛隊や全国から集まったボランティアの人々による瓦礫の撤去作業が精力的に進められています。

それでも建築業に携わる人などの数は不足気味で、地震で崩れた屋根の修繕なども半年以上かかったとのこと。また、地盤の弱い地域での被害はとりわけ大きく、いまだに復旧のめどがたっていないところもあります。

相馬駅から車で10分程の所にある県立自然公園の松川浦も、大震災の大きな被害を受けた地域でした。ここは風光明媚なところで、住宅も多い地域でしたが、海岸から300mあたりまでは津波で住宅が破壊され、いまは残った家が点在しているだけでした。



大震災後の松川浦

甲冑師 橋兄弟の工房

橋甲冑工房は、JR常磐線の相馬駅から歩いて20分ほどのところにあり、すぐ近くに商工会議所、社会保険事務所、市立図書館などがある街中でした。

工房は、鉄筋2階建ての建物で、母屋と隣接して建てられていました。

鎧や武具、野馬追の写真や書籍類などが所狭しと並べられた部屋は、いかにも職人の仕事場という雰囲気満ちていました。

私たちはこの工房で、橋斌さん満さん兄弟や斌さんの奥さんにお会いし、甲冑師としての相馬野馬追にかける思いや人生観などを伺いました。

橋兄弟の甲冑師としての心意気

橋甲冑工房は、相馬中村藩の家臣の流れをくむ祖父が明治35年に創業したそうです。

斌さんは、18歳の時から甲冑の製作や修繕の技術について父親から厳しい指導を受け、三代目の甲冑師となりました。弟の満さんは、兄の教えを受けて、24歳で甲冑師となり、いまでは全国でも数少ない甲冑師として兄弟で活躍しています。

甲冑師の仕事は、「脇立て」「胴甲」など一万点にも及ぶ部品について、鍛冶、彫金、漆塗り、染色などをすべて手作りで行うため、完成までに3年以上かかる仕事とのことです。

また斌さんは、日本の甲冑だけでなく、フランスやスペインなどを訪れて、西洋の甲冑についても研究していますが、「西洋と日本の甲冑の相違は、洋服と和服の違いに共通して見られる」と言われます。

「洋服に比べて、和服は、伸縮性や発汗性、重量などに、くふうがされている。」とのこと。

斌さんの話は、甲冑の持つ歴史の意味にも及び、甲冑とは「命を懸けた武士の生き様を示す死装束」の意味があり、戦い敗れて死を迎えたときにも恥ずかしくないよう、立派な甲冑を身につけて戦いに向かうという心構えであったとされています。

弟の満さんは、23才まで東京で別の仕事についていましたが、ふるさとに戻って、斌さんから甲冑の技術を教わるようになりました。しかし、満さんにとって甲冑製作の仕事はなかなか自分の思うようにならず、そんな時斌さんの甲冑製作に人生をかけた姿を見るにつけ、「自分も本物の甲冑師を目指そう。甲冑製作に自分の生き方を賭けてみよう。」と考えるようになったとのことでした。



橋甲冑工房



作業中の橋 満氏



作業中の橋 斌氏

伝統行事 「相馬野馬追」の歴史

もともと野馬追は、平安時代の坂東の武装農民たちが所領安堵を妙見（北斗七星）に祈り、野生馬を追い、捕まえて神社に献納するという軍事訓練を兼ねた神事でした。第五代相馬重胤（しげたね）公が、一族及び相馬家の氏神である妙見宮などとともに現在の相馬地方に下向した際にこの地にもたらされ、所領安堵と領民安寧を祈るための重要な地域の伝統行事として継承されてきたものです。

相馬野馬追行事のあらまし

現在の野馬追行事は、7月の最終土曜日、日曜日、月曜日の3日間行われています。そして、野馬追の原型は、明治6年にさかのぼるといわれています。

明治4年に廃藩置県の勅令が発せられ、奥州相馬氏700年の歴史も終焉を迎え、伝統行事の相馬野馬追も存続が危ぶまれるようになりました。

そのため、太田神社の佐藤正久氏が相馬の誇りである野馬追行事を何とか継承したいと、明治5年、同社の祭事として復活させました。

そして、明治6年には小高神社、同7年には相馬中村神社も参加し、三社合同の例祭として盛大に行うようになりしました。

また、昭和41年からは、1日目は宵乗、2日目は野馬追、3日目は野馬懸と続き、昭和53年には国の重要無形民俗文化財の指定を受け、現在に至っています。

（参考・相馬外天会 鈴木光一「相馬野馬追の歴史」）



出陣の絵を背にして語る田代誠信氏

相馬野馬追を支えている人たち

相馬中村神社宮司 田代誠信(とものお)氏

相馬駅から徒歩で30分くらいの場所に、相馬市の氏神「妙見」を祭る相馬中村神社があります。

鳥居をくぐると、根の部分がくつつき、親子が寄り添うようにそびえる杉の木が目の前にあらわれます。長い歴史を持つ神社の御神木として鎮座し、市の天然記念物に指定されています。また、鎮守の森に囲まれた本殿、幣殿、拜殿は寛永20年（1643）に建立されたもので、相馬地方の代表的な古建築として知られています。

相馬中村神社の29代目の宮司である田代誠信氏は、中村神社と相馬野馬追の関わりや甲冑師の橘さん兄弟にかける期待、これからの野馬追行事の課題などについて話されました。

「相馬野馬追と相馬中村神社」

「相馬野馬追行事の起源は、平将門の軍事訓練から始まったとされていますが、この行事の真意は、野山に生息する野馬を捕らえ妙見様に奉納することにあつたと伝えられています。」

明治以降は野馬がいなくなったので、騎馬武者に扮した人たちが、神旗争奪戦で武勲と馬術を競うこととなりました。そして、相馬野馬追の行事では、神主と甲冑で身を固めた騎馬武者たちによって相馬中村神社にお神輿が供奉され、そのあと神社と騎馬隊が一体となって南相馬市の雲雀が原をめざすのです。」



中村神社本殿への階段ごとに馬頭が置かれている

「相馬野馬追行事の後継者育成」

例年、相馬野馬追には、先祖伝来の鎧や武具を身につけたおよそ500人の人たちが参加していますが、参加に必要な資金はすべてが自費によるものです。野馬追に参加する人たちには「怪我と弁当は自分持ち！」が合言葉なのです。

「これからも伝統行事の相馬野馬追を途切れることなく継承していくためには、相馬野馬追のメーンである騎馬行列などに甲冑で身を固めた騎馬武者として参加している人たちや、野馬追を脇で固めている橘さん兄弟のような立場の人たちの後継者をどう育成していくかということが、喫緊の課題になってきています。」



橘兄弟

「このような相馬の人たちにとって、野馬追の行事に欠かせない甲冑の製作や修理をしてくれる橘さん兄弟は、『野馬追になくってはならない存在』になっています。」

橘さん兄弟には、これまでも近所の子どもたちに甲冑師としての心構えや手作りを中心とした技術的なことについてご指導いただいています。残念ながら、この仕事を続けてもいい、という子どもたちがなかなか現れないのも現実です。

これは、市長さんや相馬野馬追外天会などの関係者もみんなが心配している課題です。したがって、青年会議所や、行政からの計画的な後継者育成の適切な対策が急がなければならぬと考えています。」

相馬市長 立谷秀清氏

市長の立谷さんは、東日本大震災で大きな被害を受けた相馬市が、復興の途上であっても野馬追行事を続けることこそが地元にいる市民や避難している市民に対する【復興の狼煙！】になるとの思いを、立谷氏のメールマガジンを通して次のように市民の皆さんに訴えました。

「去る5月、相馬家第33代相馬和胤（かずたね）氏より、本年度の相馬野馬追の総大将を勤めよとのご下命を賜り、謹んでお請けした。」

「困難に耐えながらも生き延びてきた我が故郷のためまない足跡の中で、相馬家をはじめ多くの人々が連綿と守ってきたのが相馬野馬追である。」

江戸期のはじめ、伊達に備えて背水の陣を敷き、野馬追の陣立ての度に家人と水盃を交し出陣の禊ぎとし、太平の世にあっても緩めることを慎んだ。

有事に備えて死を覚悟することにより、野馬追を相馬武士の精神鍛錬の場としたのである。」

（参考・2011年のメールマガジンから）



馬は北海道から～競馬からの2度目のおつとめ

相馬市商工観光課係長 鈴木洋平氏

相馬野馬追祭の市の窓口になっている観光物産係長の鈴木洋平氏は、この伝統行事の更なる発展のために、「相馬市は、関係団体との連携を図りながら「相馬市相馬野馬追復興委員会」を設置し、組織的にバックアップをしています。」

委員は、相馬市、相馬中村神社、観光協会、青年会議所などの関係者37名で構成しています。この委員会は、野馬追の復興、甲冑や武具等の保存、後継者育成などに関する事業を推進しています。

「観光客や騎馬武者たちの安全確保についても警察署、消防団、交通安全協会などに協力を呼びかけて事故のないように警備体制の強化を図っています。」と話してくれました。



外天会 鈴木光一氏 佐藤達雄氏

相馬そうまがいてんかい外天会 会長 佐藤達雄氏
同 顧問 鈴木光一氏

両氏によると、相馬外天会が相馬野馬追に参加するようになったのは平成4年からです。会名は相馬家16代の相馬長門守義胤（よしたね）の法名「外天」にちなんだものです。相馬中村藩の關流砲術（せきりゅうほうじゆつ）を平成10年に復活しました。

現在、20代から70代までの26人が、相馬武士の気概を持って、野馬追の参加、關流砲術の射法練習、勉強会を行い、年数度の演武披露にも出場しております。会員全員が相馬の伝統文化である野馬追と關流砲術を大切に守ってゆく決意を語ってくれました。

橋兄弟と東日本大震災

2011年3月11日午後2時45分、大きな揺れがきたとき、斌さんは工場の1階、満さんは2階でそれぞれ作業をしていました。鎧が大きく揺れ動き、すべての武器、書物などが倒れてしまいました。工場が鉄筋で造られていたことと、地盤がしつかりしていたこともあり、奥様を含め全員が外に飛び出すことができました。母屋は、家具類がめちゃくちゃに壊れ、屋根も大きく破損してしまっただけです。

橋さん兄弟は、自分たちも大きな被害を受けながらも、相馬市が受けた地震と津波のあまりにもすさまじい爪痕に驚き、「地元のために何かやらなければなんねえ」と、翌日から、近くの体育館にいる84名の避難者に毛布や着類、食事などを自衛隊員とともに届ける救援活動に懸命に取り組みました。復旧活動もままならない日々が続く、人々の気持ちが不安定な状態にあった2011年4月ごろ、斌さんのもとに相馬家の子孫である友人から「今年の野馬追はどうするのか」という話がありました。

斌さんは、3月11日のことがトラウマとなって「晩酌の量が増えた」と感じる日々を過ごしていましたが、「この伝統行事は、昭和20年の空襲時に米軍のグラマンが飛んでいる中でも続けた」野馬追を守ることは相馬人の魂だ！と答え、このときから、工房や依頼された甲冑、武器の修復に追われる日々が始まったのです。

また、南相馬市に住んでいた満さんは、3月11日以降、家族とともに奥様の実家がある滋賀県の長浜市に自主避難していましたが「相馬でやらなきゃなんねえことがある」と言って、単身、南相馬市の自宅に戻ってきました。そして、「伝統を絶やしてはご先祖様に申し訳ねえ。誰かがやんなくちゃなんねえんです。」との思いから、満さんも斌さんと一緒になって、兄の工房で甲冑の修復に取り組み始めました。

復興のシンボル相馬野馬追

2011年度の野馬追は、橋さん兄弟や相馬中村神社そして相馬市の関係団体等の積極的な支援もあり、内容は縮小されたものの、7月23日から25日までの日程で行われました。

7月23日は、相馬中村神社を中心としながら宇多郷騎馬会・北郷騎馬会の行事。24日に予定されていた例年のメインである騎馬行列・甲冑競馬に神旗争奪戦は行わず、太田神社を中心とした中ノ郷騎馬会の行事のみを行いました。

最終日25日は、小高神社を中心とした小高郷騎馬会・標葉郷騎馬会の行事が行われました。

この年の騎馬隊に参加したのは、例年の約500人に対して80人程度でしたが、斌さんは、「今回の野馬追は、千年に一度という規模の大変な被害を受けた中で行われたものです。」

人数は減りましたが、力強く復興をめざす相馬人の志を示す最大の騎馬行列であった。と振り返りかえっています。



騎乗者 中野恵順氏



住みよい 街づくりをめざして

ふるさとつくばゆいまつり

実行委員会

筑波研究学園都市 筑波大学とつくば市

筑波研究学園都市は、昭和38年9月の閣議了解により、現在のつくば市と牛久市を含む筑波山麓に、建設が決定されました。

その目的は、科学技術の振興と高等教育の充実及び東京の過密解消対策でした。

現在、研究学園都市は、国、民間合わせて約300に及ぶ研究機関・企業、約1万人以上の研究者を擁する我が国最大の研究開発拠点として50年を迎えています。

この研究学園都市の研究・教育の中核として位置付けられた筑波大学は、昭和48年10月に前身の東京教育大学の地（東京都文京区）から移転し、40年を経た現在、総面積約267万㎡、学生数は1万人を超える「世界に開かれた大学」として、ますます重要性を高めています。

また、研究学園都市の中心部に位置するつくば市は、昭和62年に谷田部町など3町1村が合併して誕生した歴史の新しい街です。

東京の中心から北東約60km、新東京国際空港の北西約40kmの距離にあり、かつてはJRの駅から離れた、やや不便な街という印象がありました。つくばエクスプレスの開通により、いまでは秋葉原から快速急行で、約45分の人口20万人を誇る茨城県南部の中心都市として成長を続けています。

筑波大学の学生がはじめた「ゆいまつり」

新しい街、つくば市は、全国から集まってきた筑波大学の学生にとって、当初は市民同士のつながりも薄く、街としての一体感に欠けると感じられたようです。

そのため、筑波大学たちは、「まつりを通して、つくば市民が一つになれる住みよい街をつくらう」と立ち上りました。

つくば市は、多彩な人々が集まっています。研究者がいます。学生もいます。留学生を含めた外国人も相当数います。

このような生活環境でつくば市らしい商店街も誕生しました。こういう人たちの力を集めれば素晴らしいまつりができる。そして、このまつりを通して、街に「ただいま」「おかえりなさい」という言葉があふれる温もりのあるつくば市をつくらう。これが筑波大学の学生たちの合言葉になりました。

平成24年3月、つくば中央公園で第1回「ふるさとつくば ゆいまつり」が行われました。

このまつりに参加した市民の数はおよそ5600人。「ふるさとつくば ゆいまつり」は、筑波大学の学生たちの発想から生まれた《市民と学生をつなぐムーブメント》となったのです。

「ゆいまつり」への夢

初代〜第3代実行委員長 守屋 俊甫氏の話

（平成21年筑波大学体育専門学群卒業）

私は第1回から第3回までの実行委員会の委員長を務めました。私が「ゆいまつり」の実行委員会を立ち上

げるにあたって一番こだわったのは、この「ゆいまつり」は「市民と学生が共に創り出す」そして「つながりを深める」という目的ではじめるイベントですから、事務局には学生だけでなく市民の方にも入ってもらおうということでした。

学園祭や宿舍祭を経験した学生たちも「大学という枠を超えて地元で活動したい」との思いで実行委員会に参加しています。

また、地元の企業や市民団体にも、「ゆいまつり」の趣旨を理解してもらい、協力・協賛を続けていただいています。

この「ゆいまつり」の運営にかかる経費は総額でおおよそ110万円。そのうちの約50万円は茗溪会からの助成金。残りの60万円は、協賛金、寄付、物品販売で賄っています。

「ゆい」というのは人と人をつなぐという意味の言葉です。まつりの名前を考えた時、「つくばはみんなのふるさとである」という気持ちを「ゆい」という言葉に込めました。

「つくば市で生まれた人はここが第1のふるさと」、「大学等で育ち、つくば市に根付いた人には第2のふるさと」、「一度ほかの地域に移り、また、つくば市に戻ってきた人には第3のふるさと」です。

まつりを通して、人々が集い、結びつきを深め、温もりのある街をつくりたいというのが、私たちの願いなのです。



夢を語る守屋 俊甫氏
(初代～3代実行委員長)

初代～第2代事務局長 船山 裕貴氏の話

(平成25年筑波大学社会・国際学群卒業)

私は、「ふるさとつくば ゆいまつり」を始めるにあたり事務局長を仰せつかりましたが、はじめは「自分にゆいまつり」を通して「つくば市をふるさととする人たちの結びつきを強め、温もりのある街をつくらう」というこの企画を何としても成功させなければならぬという気持ちで強くなり、事務局長を引き受けました。

第1回の「ゆいまつり」は、平成24年3月11日の日曜日につくば中央公園を会場として開催しました。

私たちにとっても初めての「ゆいまつり」でしたので、うまくいくか不安もありましたが、市民の反応は大変良く、次年度以降の開催を望む声も数多く寄せられました。そして、第2回目は平成25年3月16日(土)に、つくば市の協力も得て、つくば駅から徒歩約3分のところにある、つくばセンター広場を会場として開催することになりました。

この年の「ゆいまつり」は、第1回の企画に加え、新たにママさんサークルが企画した展示やステージによる「つくばママサークルフェスタ」を加えるなど、内容の充実を図りました。

また、「ゆいまつり」にもっと多くの市民に参加してもらえるイベントにしていこうため、高齢者がいる全世帯に回覧板を回したり、市内にある全ての幼稚園児、小・中・高校生にポストカードを送ったり、3回も記者発表を行うなど、市民への周知を徹底しました。その結果、前年比の2倍に相当する約1万2000人の市民の皆さんが来場してくれました。

「ゆいまつり」への期待

学生たちの始めた「ゆいまつり」がつくば市の新しい伝統のまつりとして大きく育っていくことを願い、市長も市民の皆さんも応援してくれています。



まつりを楽しむ演者たち～学生、つくば市民

つくば市長 市原 健一氏の話

私は、「ふるさとつくば ゆいまつり」のオープニングセレモニーに出席しました。

このまつりは、筑波大学の学生や卒業生が中心となっており、人や文化、そして知の「つながり」を創ることを目的に実施されています。東日本大震災の発生以来、【絆】の大切さがクローズアップされるようになってきました。人とつながるツールとして、フェイスブック、ミクシィなどのSNSが飛躍的に進歩していますが、人と人が顔を合わせてその場の空気を共有することが、絆を深めることにつながると思います。これからも、つくばに関わる大勢の人が集うことのできる「ゆいまつり」を長く続けていただけることを期待しています。

(参考・平成25年公式ブログから)

市民の美行委員 袋野 光子氏

私は、市の広報で「ゆいまつり」のことを知り、第1回は、ゴミステーションのボランティアとして参加しました。そのボランティア活動を通して、筑波大学の学生の皆さんが、つくば市のことを考え、つくばを温もりのある街にしようと頑張っている姿を見てお手伝いをしたいと考え、第2回からは実行委員として参加するようになりました。

学生と市民が一緒になって魅力ある街づくりをしようというのとても素晴らしいことです。

学生の皆さんのエネルギーな活動は、私の元気の源でもあり、これからも「ゆいまつり」のお手伝いを続けていきたいと思っています。

つくばママサークルフェスタ代表 宮澤 美幸氏

私たちの団体は、つくば市内の「ママ」が主体となっているサークルの集まりで、新しくママになった人や市内に転居して来たママに、近くのサークルを紹介しようという趣旨で、平成24年に発足した団体です。

筑波大学の学生が企画している「ゆいまつり」が、みんなと一緒に楽しもうというイベントであることを知り、手芸作品の展示や和太鼓、わらべうたなどを発表し、第



左・宮澤 美幸さん、右・袋野 光子さん

2回から参加するようになりました。「ゆいまつり」を通して、市民どうしの交流を深め、ママサークルの活動も知ってもらい、ママどおしのつながりも深めてゆきたいと考えています。

第三回「ゆいまつり」の成功をめざして

第3回「ふるさとつくばゆいまつり」は、平成26年3月8日(土)につくば市つくばセンター広場で開催されました。

第3代事務局長から「新しいつくば発見」をキーワードとした今回の「ゆいまつり」の成果をうかがいました。

第3代事務局長 中川 沙羅葉氏の話

(筑波大学生命環境学群三年生)

第3回の今年は、事務局長を仰せつかりましたが、事務局長として私が一番力を入れたのは、学生と市民が今まで以上に知恵を出し合って新しい企画を考え、数多くのつくば市民に参加してもらえる楽しい「ゆいまつり」にしたいということでした。

そのため、今回の「ゆいまつり」に参加するそれぞれの団体が、つくばの良いところを発見できるような企画を持ち寄って、「つくば新発見」を参加者全員で共有することをめざしていました。

人気を集めた企画のいくつかを紹介すると、まず「ゆいマルシェ」と名付けたブース企画がありました。

これは、つくば市で撮影した写真などを絵葉書にして自分の一番大切な人に届くように投函するというものです。

もう一つは、新企画「ひとてま」です。

初めて会った人や親子、友達など参加者の皆さんが、「握手」という共同作業をおして、箸置き型のオブジェを作成するというものでした。



まつりを楽しむ家族

取材を終えて

今回の特集は、甲冑師として「相馬野馬追」を支える橘氏兄弟とその関係者、そして「ふるさとつくば ゆいまつり」を始めた筑波大学生と、その活動を支える市民の方がたにお会いしての取材記としました。

「相馬野馬追」は、千年を超える伝統行事です。東日本大震災で大きな被害を受けながらも、この伝統行事を途絶えさせることなく実施にこぎつけた甲冑師の橘兄弟や相馬市の皆さんの取り組みは、被災した相馬の人々を大いに勇気づける新たな価値を生んだ行事となりました。

一方で、こうした伝統行事を継承していくためには、後継者問題が大きな課題となっていることも知りました。

また、「ふるさとつくばゆいまつり」については、この地に、後世に伝えられるであろう「新しい地域文化」の第1ページが始められた姿を見ることができました。

この二つの取材を通して、「伝承」と「創造」の織りなすエネルギーが、確実に「明日」を創り上げようとする息吹となっていることを目の当たりにしたという思いがしました。

大学は今

永田学長が安倍内閣総理大臣の アフリカ訪問ミッションに参加

永田恭介学長は1月9日から14日の日程で、安倍晋三内閣総理大臣のアフリカ3カ国（コートジボワール、モザンビーク、エチオピア）訪問に同行する経済ミッションに我が国の教育・学界代表として参加しました。経済ミッションには、企業から加瀬豊双日会長（経団連サブサハラ地域委員会委員長）はじめ25社の代表取締役会長・社長、国際協力機関から田中明彦国際協力機構（JICA）理事長ら6機関の理事長等が参加し、本学からは、池田潤学長補佐室長、秋山和男国際部長が学長に同行しました。



上：安倍総理と昼食会
（モザンビーク）
左：エチオピア
拡大首脳会談



総合演習実技訓練の様子



つくば市消防本部署員による
化学車の装備等の説明

平成25年度第2回 NBC災害・ テロ対策研修を筑波大学附属病院で実施

1月23～25日の3日間、厚生労働省から委託された日本中毒情報センターが筑波大学附属病院の協力で、けやきプラザをメイン会場に、平成25年度第2回NBC災害・テロ対策研修を実施しました。NBC災害とは Nuclear, Biological, Chemical による特殊災害のことで、本研修はテロのみならず人為災害や自然災害により被災した患者の受入れや、派遣する医療機関支援チームの要員の育成を目的としています。

今回の訓練に、全国から15施設、計75名が参加しました。本院からは、救急・集中治療部水谷太郎教授が講師として、NBC災害・テロ発生時に対応する可能性が高い、救急・集中治療部の医師、看護師、放射線技師及び臨床工学技士が受講者として参加しました。5人はいずれも本院DMATのメンバーです。

第3回 B A M I S 国際フォーラムを開催

3月1日、筑波大学東京キャンパスにおいて「第3回 B A M I S 国際フォーラム（筑波大学開学40+101周年記念事業）」を開催しました。

身心統合科学（Body and Mind Integrated Science: B A M I S）プロジェクト（文部科学省概算要求特別経費、中心研究者：筑波大学教授 征矢英昭）では、「心・技・体をトータルに捉え、人々が「活力」や「しなやかさ」を備えた身体と心を持つために、運動がいかにして貢献するかを科学的に研究してきており、その一環として本フォーラムが開催されました。

国内・国外の大学や企業の関係者約180名が来場され、会場では、身心統合の重要性やプロジェクトで得られた研究成果について多くの議論がされました。



シンポジウム出席者による集合写真

研究科	専攻	氏名	活動テーマ
人間総合科学研究科	感性認知脳科学専攻	越部裕子	筑波大学心理・障害相談室等における評価、相談および訓練の実施
	体育学専攻	高橋靖彦	第10回世界ラート競技選手権における日本人初の男子個人総合優勝
	芸術専攻	市川寛也	アートプロジェクト「隅田川妖怪絵巻」の実施
図書館情報メディア研究科	図書館情報メディア専攻	村野亜子	研究活動に基づく子どもと読書に関する研究成果の情報発信～「図書館総合展」および「ニコニコ学会βデータ研究会」での発表～

筑波大学芸術専門学群学生・大学院生 優秀作品受賞者と作品名(3名)

専攻	氏名	作品
人間総合科学研究科 前期芸術専攻	笹岡るり	洋画 呼応する記憶
芸術専門学群	竹中大悟	彫塑 いる まーれ
	福山菜穂子	クラフト ある日のこと

第13回「顕彰」候補者の推薦依頼について

茗溪会が主催する顕彰事業は、茗溪創基130周年を記念して始められた公益事業です。平成26年には第13回を迎えます。

顕彰対象は、地域社会にあって広く社会に貢献している青少年や一般社会人となります。今回も、顕彰候補者を広く全国的な視野から積極的に発掘し、下記の要領により推薦してください。

ただし、公益事業としての趣旨から、政治家、現職の公務員等および、現在、本会の本部、地域、職域等の単位組織等の役職にある者は対象外となります。なお、本会会員であって役職にある者でも、その社会貢献の実績が、社会的に評価されている場合は、候補の対象から除かないものとします。

平成24年度からは、従前の、筑波大学の芸術関係学生への顕彰に併せて、社会貢献を進めている大学院生等も対象にしました。

また、社会的客観性を高めるために、当該地の教育委員会、新聞社(支局等を含む)、放送局あるいは関係団体、有識者、本会会員の提案、参考意見等を積極的に求めてください。

- (1) **顕彰対象** 社会貢献活動者、芸術創造活動(作品)者等。
- (2) **推薦** 全国の代議員、支部長(会長等)、本部理事等から候補者を推薦する。推薦にあたっては、世代、地域、職域、あるいは学内にあっては、芸術、スポーツ、また、社会貢献度、研究成果等を考慮する。
- (3) **選考** 一般の社会貢献者は、推薦された候補者の中から、選考委員会において顕彰対象者を選考する。選考委員会は、当該担当の副理事長を座長、理事会内に設けられている各委員会の委員長を内部委員とし、理事長が委嘱した有識者を外部委員として構成する。
なお、筑波大学生、大学院生に関しては、学内に設置された選考委員会の結果を尊重する。
- (4) **推薦締切** 一般候補者の推薦締切は、平成26年9月末日、大学内締切は、平成27年2月末日として、関係書類を事務局へ提出されたい。
- (5) **顕彰式等(茗溪賞)** 一般顕彰者を本部に招いて、顕彰式、祝賀会を行い、大学院生関係者は学位授与式等に併せて行う。また、顕彰者の推薦記録等を中心に記載した“顕彰録”を作成して、本部に永く保存するとともに、本人をはじめ国会図書館等の関係方面に贈呈する。一方、顕彰受賞者の社会貢献活動の概要等を、季刊誌「茗溪」へ掲載して、広報・周知を図る。

平成25年度 筑波大学大学院生 茗溪賞受賞者と活動テーマ (26名)

研究科	専攻	氏名	活動テーマ
教育研究科	スクールリーダーシップ開発専攻	中村 映子	小学校におけるアクションリサーチを通じた学級経営改善支援
	教科教育専攻	馬場 隆	筑波大学ネットワーク衛星「結」を利用した理科教育の開発
	特別支援教育専攻	渡辺 修	多様な子どもたちに対する継続的なボランティア活動
数理物質科学研究科	物性・分子工学専攻(前期)	王 傲寒	小中高生への理科教育実験啓蒙活動
	物性・分子工学専攻(後期)	金 兌現	筑波大学の国際・国内共同研究
システム情報工学研究科	社会システム工学専攻	盆子原 歩	福島県・茨城県における震災復興支援と高大連携およびアカデミックアライランス連携
	経営・政策科学専攻	YAN ARYANTO	経営・政策科学専攻における国際コミュニケーションの推進活動
	社会システム・マネジメント専攻	吉井 淳	米軍基地ハイスクール等との高大連携および産学連携
	リスク工学専攻	川瀬 雅士	カンボジア シェムリアップ トンレアアップ村の学校における教育活動
	知能機能システム専攻(前期)	安立 隆陽	博士学生会運営委員としての活動および大学院生としての広報活動等
	知能機能システム専攻(後期)	小林 透	筑波大学での研究活動により培った専門性・コミュニケーション能力を活かしたアウトリーチ活動
	構造エネルギー工学専攻	鈴木 あゆみ	協定校での短期留学経験を生かした留学生支援活動及び障害者支援活動の実施
生命環境科学研究科	生物科学専攻	Martin Miguel Casco - Robles	イモリ体再生メカニズム解明のための高効率な遺伝子改変技術の確立と普及
	生物資源科学専攻	宮田 宣也	東日本大震災被害を受けた南三陸町、石巻市雄勝への支援活動
	生物圏資源科学専攻	羽生 一予	環境教育における「土壌観察会」の推進
	生命共存科学専攻	住吉 美奈子	筑波大学におけるアウトリーチ活動及びサイエンスコミュニケーション団体「SCOUT」の学生スタッフとしての活動
人間総合科学研究科	教育基礎学専攻	張 揚	つくば市および茨城県における留学生交流の促進
	心理専攻	広瀬 拓海	子どもの放課後の活動を支援する団体におけるボランティア活動
	心理学専攻	兪 善英	消防職員の惨事ストレスに関する研究・ケア活動の支援
	生涯発達専攻	笠原 桂子	聴覚障害者等の安定就労・職域拡大・能力開発・情報保障に関する支援
	生涯発達科学専攻	堀内 泰利	筑波大学大学院カウンセリングコース・キャリア・プロジェクト(略称：TCCP)を通じた中小企業で働く人へのキャリア支援
	ヒューマン・ケア科学専攻	松田 智行	絆がみえるまちづくりの創設 ～つくば市地域診断に基づく高齢者地域包括ケアネットワークづくり～

第18回 茗溪・筑波 グランドフェスティバル開催

日時 平成26年1月25日(土)
午後1時30分～
場所 筑波大学学生会館
学生会館レストラン

茗溪・筑波グランドフェスティバルと 題字「輪」

第18回茗溪・筑波グランドフェスティバルは、1月25日に筑波大学学生会館において開催されました。

この茗溪・筑波グランドフェスティバルは、筑波大学の卒業生や前身校である東京教育大学の卒業生、ならびに在學生と教職員が集い、世代を超え、また学群・学類を超えて親睦を深めるイベントです。筑波大学の更なる発展に寄与しようという願いから、平成8年1月にはじまり、今年で18回を迎えました。

今回の茗溪・筑波グランドフェスティバルでは、「輪」という文字をテーマ字として掲げました。「筑波大学」でつながる関係者が心を一つにし、大きな「輪」を作っていききたい。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、「オール筑波大学」として一体となり、様々な分野から大会成功に貢献していききたいとの願いを込め、学生実行委員たちにより考えられました。学生実行委員の一人岡川武和さん(体育専門学群2年生)により自ら書かれた題字が当日掲げられました。また、ポスターやプログラムの表紙にデザインされたロゴは、芸術専門学群の学生による作品です。



実行委員長 真田 久氏

オープニングセレモニー

オープニングセレモニーでは、最初に大会会長である永田恭介学長から、開学40周年を迎えた本年度、前身校から141年の歴史によって築かれたレガシーのもと、地球規模課題の解決と未来地球社会の創造に向けたグローバル人材の創出をめざしたい、と挨拶されました。

その後、茗溪会理事長の江田昌佑氏より同窓会を代表してご挨拶をいただき、本フェスティバルは、中村良三先生(本学名誉教授)を中心に発案されて1996年に東京において立食パーティ形式で開催され、その後シンポジウムなどを含めた会として今日に至っていること、その間、多くの方々に支えられてきたことなどが紹介されました。実行委員長の真田久(体育専門学群長)からは企画の説明と支援に対する謝辞があり、最後に江田茗溪会理事長から永田学長に援助金の贈呈が行われました。

シンポジウム

シンポジウムは、「創ろう！東京オリンピック・パラリンピック」おもてなし×教育×筑波大学」をテーマに学生会館ホールで行われました。

2020年大会開催に向け、筑波大学の関係者や学生がどのようにかわり、創り出していけるのか、その可能性について次の方がたを基調講演とパネリストに迎えてディスカッションされました。

・基調講演

浅野 敦行氏(文部科学省スポーツ・青少年局競技スポーツ課国際スポーツ室長)
「スポーツ・フォー・トゥモローについて」

・パネルディスカッション

阿江 通良氏(筑波大学副学長・教育担当)

「2020東京オリンピック・パラリンピックと筑波大学」

太田 圭氏(筑波大学芸術系教授)

「アートとオリンピック・パラリンピック」

根本 文雄氏(大塚特別支援学校教諭)

「オリンピック教育の展開」

江上いずみ氏(スローバルマナーズプリングス代表)

「オリンピック・パラリンピックにおけるおもてなしの心」



浅野敦行氏

基調講演では、2020年大会の東京招致活動の最前線で活躍され、現在は、大会開催に向けて行政の中核として日々奔走されている浅野氏から、今後IOCや各国NOCと連携して各国指導者や留学生を受け入れてスポーツ指導者として育成すること、学校体育が定着していない途上国に学校体育が根付くようなプロジェクトを起こしていくこと、そしてアンチ・ドーピングの活動を強化支援していくこと等を柱とする政府の政策「スポーツ・フォー・トゥモロー」について紹介され、そしてオリンピック・パラリンピックのムーブメントを促進するために筑波大学に対する3つの期待が表明されました。

筑波大学は優秀なアスリートが多くいるので、東京大会でメダルをしっかりと取っていただきたい。

約8万人のボランティアを東京大会に向けて養成をしていく計画なので、学生さんを中心にボランティアとして、みずからこの東京大会に参加していただきたい。

スポーツ・フォー・トゥモロープログラムというスポーツの国際貢献プログラムのプロモーターとしてぜひ、協力していただきたい。



阿江通良氏

パネルディスカッションにおいて最初に登壇された阿江副学長は、次のように話されました。

「2020東京大会を契機に、体育・スポーツ科学の分野における高い研究成果と実践的な成果をベースとして日本独自の体育・スポーツ観を世界に発信するということが重要であり、それは自他共栄を重視した日本型スポーツの再構築であり、それによる国際貢献を行うことが重要である。そしてそのために、人間形成的、教育的な要素の強いスポーツ等の営みをTAIIKUと定義して、身体から知や徳を高める教育の一つとして世界に発信するべきである。」



太田 圭氏

次に登壇された太田圭氏からは、戦前のオリンピックには、彫刻、文学、建築、音楽、絵画5つのジャンルからなる芸術競技が正式種目としてあり、金・銀・

銅メダルが授与されていたこと、日本人画家の藤田隆治と鈴木朱雀も1936年のベルリン大会でメダルを獲得したこと、芸術競技は、戦後には芸術展示、今日では文化プログラムとして開催国を中心に行われていることなどが紹介され、今日のオリンピック・パラリンピックにおいても、ポスターやメダル、ロゴマークのデザインなど、文化や芸術と深い関係にあることが示されました。また、日本人のオリンピック選手の中には、画家や小説家などもいたことや、2000年のシドニーオリンピック・パラリンピックでは、文化プログラムに出席した芸術学専攻のOGがいたことも紹介され、今後の筑波大生の文化・芸術方面での活躍を期待されました。



根本文雄氏

大塚特別支援学校の根本文雄氏からはオリンピック・パラリンピックを題材にしたご自身の教育実践について報告されました。

2012年のロンドン大会で活躍したアスリートについて感想をまとめ、彼らにメッセージを送ったところ、何人かから返事がありまた来校して交流できたことにより、アスリートも様々な苦労を乗り越えてがんばっている姿に生徒が共感を覚えたと話されました。そして学習発表会でオリンピックに関するクイズや聖火の表現などを発表することにしたところ、生徒は積極的に取り組み、結果的に自尊心を高めることができたことが紹介されました。



江上いずみ氏

最後に登壇された江上いずみ氏は、30年間に及ぶ国際線客室乗務員の経験から、握手のしかたなどのグローバルマナーの紹介とともに、日本の紹介ととも

しとはどのようなものなのか、ということを知りやすく話していただきました。そして、2020東京オリンピック・パラリンピックでは8万人ものボランティアが必要になるので、おもてなしの心とグローバルマナーを身につけた学生が、積極的にボランティア・リーダーになつていただきたいと期待を寄せられました。

デイスカッションでは、2020年大会に向け、附属学校を含めた筑波大学の全学的な連携による、競技面のみならず、文化・芸術や学校教育のプログラム、そして「おもてなしとグローバルマナーの関連など、新たなオリンピック・ムーブメントの創造について意見が交わされました。

懇親会

シンポジウム後に開催された懇親会は、大学会館レストランにて16時30分から開催され、「筑波大学の酒・桐の華」の鏡開きをはじめ、筑波大学ときめき太鼓塾、応援部WINSによるパフォーマンス、宣揚歌「桐の葉」の合唱などが行われました。

おわりに

茗溪・筑波グランドフェスティバルの運営については、昨年から各学群の持ち回り制となり、今回は委員長が体育専門学群、副委員長は情報学群が担当いたしました。学生の実行委員を募ったところ、体育専門学群2年生5人が参加し積極的に企画していただきました。

ただ、ほかの学群・学類からの学生委員の参加はなく、終了後の反省会で今後も継続的に運営していくためには、当該学群の2年生が中心となり、次年度の当番学群の1年生が加わり、さらに1年前に中心となった学群の3年生を加えて学生委員会を構成すれば、引き継ぎも含めてうまくいくのでは、という意見が出されました。次年度の委員の方々に申し送りしたいと思います。

また、広報活動が遅れたこともあり、十分にうまくいきませんでした。そのためシンポジウムにおける学生の参加が少なかつたことが残念でした。良い企画にもかかわらず、この点は実行委員長として反省いたします。

最後になりましたが、茗溪・筑波グランドフェスティバルに多大なご支援をいただきました茗溪会、大学本部の皆さま、そして学生委員をはじめ当日お手伝いいただきました学生諸氏に心より感謝申し上げますとともに、次年度の成功を祈念したいと思います。

(実行委員長 真田 久)

平成26・27年度 一般社団法人茗溪会 代 議 員 一 覧

推薦支部	姓 名	卒年 卒科・群	推薦支部	姓 名	卒年 卒科・群	推薦支部	姓 名	卒年 卒科・群
筑波大	森嶋 厚行	平5 筑三情	文科省	三橋 浩志	昭63筑一自	石川	久下 恭功	昭49教大体
筑波大	中井 央	平4 筑三情	足立	田原 章孝	昭51教大応数	福井	南部 則雄	昭53筑体
附属校	日下部公昭	昭52教大東史	江戸川	奈良 隆	昭53筑体	静岡	岡 岩城 明	昭55筑一人文
図情橘会	森 茜	昭40図短特養	大田	上村 肇	昭55筑一社会	静岡	岡 渡邊 憲章	昭55筑修環
図情橘会	遠藤 茂樹	昭51図短特養	葛 飾	渡邊 悟	昭62筑博農	静岡	岡 松井 和子	昭54筑体
図情橘会	寺沢 白雄	昭59図大図情	北	村松 広英	昭57筑一社会	静岡	岡 伊藤 宏	昭48院修体
図情橘会	大場 高志	昭51図短特養	江東	浦部 利明	昭58筑修教	愛知	知 鳥山 勇	昭48教大数
図情橘会	茂出木理子	昭60図大図情	品川	真当 哲博	昭57筑二人間	愛知	知 高須 勝行	昭51教大哲
北海道	沖野 隼夫	昭41教大体	渋谷	竹村 恭一	昭56筑一自	愛知	知 村松 利之	昭53筑体
北海道	大沼 寛	昭47教大体	新宿	浅井 一郎	昭55筑一人文	愛知	知 松浦 滋	昭46教大健
青森	田代 高之	昭52教大武	墨田	大井 俊博	昭53筑体	岐阜	阜 丹羽 章	昭53教大農
岩手	栗林 徹	昭55筑体	世田谷	徳田 安伸	昭55筑二農	滋賀	賀 町田 登	昭47教大健
宮城	蘇武 德行	昭51教大武	台東	柳 久美子	昭50教大体	三重	重 丹羽 毅	昭56筑一自
秋田	船木 賢咲	昭49教大武	中央	中村 穎司	昭35教大國	京都	都 塩見 均	昭47教大数
山形	形 津田 浩	昭58筑一自	中野	池田 浩二	昭57筑芸	大阪	阪 松本 秀範	昭53院修林
福茨	島 鈴木 弘文	昭46教大米	練馬	竹内 秀一	昭51教大日史	大阪	阪 佐藤 隆一	昭26文二
茨城	城市村 博	昭50教大数	港	及川 良一	昭52教大倫	兵庫	庫 向田 茂	昭49教大日史
茨城	郡司 丈兒	昭53筑一人文	目黒	高橋 基之	昭53筑一自	兵庫	庫 溝口 繁美	昭52教大教
茨城	石崎 弘美	昭55筑一自	北多摩北	柴田 誠	昭55筑一自	奈良	良 藤善 尚憲	昭33教大教
茨城	広瀬 茂	昭57筑三社工	北多摩南	初見 豊	昭52教大農	和歌山	歌 高田 晴美	昭50教大心
茨城	仙波 操	昭50教大農経	西多摩	小林三代次	昭51教大英	鳥取	取 有田 博充	昭41教大教
茨城	武井 秀一	昭51教大化	八王子	小島 和雄	昭36教大農	島根	根 松本 弘光	昭46教大体
茨城	高瀬 宏樹	昭55筑一自	町田	久保 淳	昭56筑体	岡山	山 長尾 隆史	昭55筑体
栃木	宇田 貞夫	昭52教大応数	神奈川	清水 進一	昭43教大数	広島	島 大辻 明	昭47教大体
栃木	上岡 利夫	昭53筑一自	神奈川	嵐 實	昭29教大農化	山口	口 鍋井 邦久	昭38教大体
群馬	馬 栗田 裕	昭53筑一人文	神奈川	小山 和夫	昭33教大教	徳島	徳 島 木村 潤	昭46教大國
群馬	馬 佐藤 功	昭55筑一自	神奈川	京野 勝	昭40教大農化	香川	川 鶴岡 英作	昭57筑二生
埼玉	玉 荒井 修二	昭25理三	神奈川	佐々木悦子	昭46教大体	愛媛	媛 中村 光宏	昭55筑体
埼玉	玉 相澤 鎮夫	昭27理三	神奈川	本木 幹雄	昭50教大健	高知	知 下坂 速人	昭53筑体
埼玉	玉 奥谷 多作	昭34教大工芸	神奈川	矢野 正人	昭53院修農経	福岡	岡 奥山 訓近	昭53教大木工
埼玉	玉 矢嶋 章司	昭35教大体	山梨	根岸 洋一	昭54院修体	佐賀	賀 野中 通兼	昭53筑体
千葉	葉 山田 哲弘	昭57筑修理	長野	平野 吉直	昭57筑修体	長崎	崎 浦下 悦二	昭50教大武
千葉	葉 黒須 健治	昭47教大応数	長野	竹村 和也	昭57筑三基	熊本	本 蔵田 勇治	昭52教大体
千葉	葉 青木 寛	昭48教大武	新潟	堀金 達郎	昭52教大応数	大分	分 渚 洋行	昭53筑体
千葉	葉 嘉村 茂邦	昭50教大物	新潟	永井 成一	昭41教大法政	宮崎	崎 児玉 洋一	平2 筑三社工
千葉	葉 西川 和樹	昭59筑一自	富山	中島 郁雄	昭53筑体	鹿児島	島 篠原 良司	昭52教大國
			富山	川腰 善一	昭56筑三社工			

一般社団法人 茗溪会(第三回)

平成26年度 定時総会開催のご案内

⊗ 日 時：平成26年 5月22日(木) 午後 2時30分から

⊗ 場 所：茗溪会館二階「茗溪」の間

⊗ 議 題：平成25年度事業報告、決算報告、平成26年度事業計画(案)予算(案)及び役員選出。
また、総会終了後、懇談会を予定しております。

平成26年度 一般社団法人茗溪会 公益・共益・広報等 年間事業計画(案)

1. 公益事業

(1) 公開講座

① 東京地区

(その1) 日時・会場・講師等：未定

(その2) 日時・会場・講師等：未定

*企画展の検討

② つくば地区

(その1) 日時・会場・講師等：未定

(その2) 日時・会場・講師等：未定

*公開講座内定の際は、そのあらしを、季刊誌「茗溪」に掲載の予定

(2) 顕彰(第13回)

① 対象 国内外で、継続して社会貢献(人材育成を含む)活動等を行ない、その実績、成果を上げている団体、個人を対象とする。筑波大学学生・大学院生を含む。

② 対象者の選定

社会貢献活動に関しては、9月末日までに、推薦候補者を、各地域・職域等の単位組織、本部理事等を通じて公募し、平成26年10月に開催を予定する選考委員会で選考した結果について理事長の承認を得る。11月に行う顕彰式で該当者に「茗溪賞」を贈る。一方、筑波大学生、大学院生については、学内に置かれた選考委員会で選考した対象者について理事長から承認を得る。

③ 顕彰録 平成27年4月に顕彰録を作成して、顕彰者および関係方面に贈呈する。

(3) 地域・職域等の単位組織主催の公開講座、講演会の共催、助成

2. 共益事業

① 筑波大学生活動等への支援強化。

② 世代間や各地域・職域の単位組織等をつなぐ活動の充実強化。

③ 会員相互の交流の推進。～グランドフェスティバル共催。賀詞交換、暑中見舞い等の名刺広告を季刊誌「茗溪」に掲載。

(1) 追悼のつどいの開催

日程・会場：未定

脱・宗派として開催し、遺族、関係者を招き、逝去された会員等の遺徳を偲び、追悼顕彰する。

(2) キャリア情報等の講座の開催

① 9月から3月の期間に8回程度、筑波大学との共催で実施。

② 3月中の3～4日間で「教職受験対策研修会」の企画、実施。

ただし、個人負担分の受講料のうち、一部を茗溪会が助成。

*筑波大学と茗溪会との連携による教職以外の分野の研修会の開催を検討

3. 広報事業

(1) 季刊誌『茗溪』の発行

会員の期待に応える情報提供に努めるとともに一般市民による茗溪会への一層の親近感を醸成し、筑波大学等からの“知”の還元を図る。

① 記事は、特集、会員関連記事とし、特集記事は、内外の話題性のあるテーマ等を設定。

*「大学のいま」、「茗溪東西南北」を新設

(2) 茗溪会 HP 掲載内容等の充実

茗溪会筑波事務所への機能移転について

筑波大学総合交流会館内にある茗溪会筑波事務所（所長・五木田喜男）は、この度、定款に基づいて、一般社団法人茗溪会筑波事務所として、正式に登記しました。また、東京の茗溪会館にある本部事務局の事務機能の一部を逐次、筑波事務所に移転させることとしました。現在、既に会員の半数以上が筑波大学の卒業生であることから、会員管理の業務から移して行こうと準備を始めました。

「愛知」の動きから

愛知支部では、平成24年度から7月の総会の前に支部主催講演会を開催しました。平成26年度は、7月12日（土）に基礎生物学研究所発生遺伝学研究部門教授の小林悟氏を講師として講演会を開催する予定である。平成24年度は中日新聞社編集局運動部長の秦融氏に「新聞記者の仕事」という主題で、平成25年度は愛知文教大学の増田孝氏に「手紙から読む人と歴史」という主題で講演をしていただいた。両会ともに100人以上の会員が集まり、熱心に講師の話に耳を傾け、それぞれの分野について教養を深めることができました。

茗溪・東西南北



第2回東京都茗溪会のお知らせ

東京都茗溪会は、昨年発足しましたが、本年も左記のとおり、講演会と交流会の開催が決定しました。

東京の支部には、住所で登録されている方に加え、職場で登録されていて他県にお住まいの方がたくさんいらっしゃいます。その特色を活かした幅広い会員の交流の場としてお集まり下さい。また、茗溪会員でなくても、同窓なら誰でも参加できる企画にしようと考えています。この機会に、職場・クラス・サークル・クラブ・OB

会員の交流ページを開設しました。

各地の活動・様々な交流について
お知らせして行きます。
執筆の依頼の折には快諾を/
支部活動等についてもできるだけ多く
報告して参ります。

会等、それぞれの仲間とお誘い合わせの上ご参加下さい。とくに今回は、旧E館の跡地に新築された建物で開催しますので、ぜひこの機会にお集まり下さい。

開催日 平成26年11月16日（日） 14時から

会場 筑波大学文京校舎（大塚キャンパス）
地下1階 多目的ホール

講演会 「ロボットスーツ「HAL」の活躍」
講師 筑波大学 山海嘉之教授

交流会 （同じ会場で行います。）

茗溪会学生活動支援事業 （県人会特別枠）について

茗溪会では、平成26年度から、同じ都道府県出身者の筑波大学学群・大学院の学生や教職員および卒業生が相集い、大学内外の同郷人と交流等を行う団体（県人会）を支援することを目的に、既存の学生活動支援の一環として「将来にわたり継続した活動が見込まれる県人会主催で、在学生や卒業生等の同郷人が集まって、情報交換を行ったり、大学祭で一般学生を対象としたイベントを行ったりする等、本学と地元および同郷の卒業生との相互理解と連携を図る活動」を、特別枠として支援することにいたしました。

支給額は当該年度中は1人当たり1,000円、1団体あたり最大30,000円までの1回限りとします。

筑波大学では以前にも県人会活動が行われ、同郷の輪を広げていました。しかし、最近では、大学祭で地方特産の料理をふるまう模擬店を見かける程度です。

本大学は、広く全国的に学生が集まる総合大学で、生募集や卒業生の地元就職にも、地方との繋がりは、一層重要になって来ています。当事者にとっても多様な人との関わりを持ち、主体的に活動する経験は貴重です。

一方、茗溪会は全国の都道府県に組織を持ち、地域・職域での活動を活発に展開しており、しかも会員の増加やその活性化に努めているところです。

このような状況のなかで、現役の学生にとっても、同郷人との間での情報交換や大学祭等のイベントを支援することは、同郷の在学生や卒業生が相互に交流し、本学と地元および同郷の卒業生との理解促進や提携を図るまたとない機会になると思われれます。

最新の筑波大学新聞4月号で、各都道府県の新入生の出身高校の情報が届けられておりますが、この情報を有効に活用するためにも学生県人会のネットワークが有効に機能すると期待されます。

なお、本事業の申請者には、茗溪会の地域、職域の各組織との連絡、連携を促しております。

（大学つくば地域支援委員会委員長 佐藤 忍）

茗溪学園だより

SSH中間評価

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定3年目の中間評価が、3月、文部科学省より発表されました。今回の評価対象は平成23年度指定の38校で、本校は「現段階では、当初の計画通り研究開発のねらいを十分に達成している。」（4段階評価の最上位、38校中9校がこの評価を受けた）をいただきました。

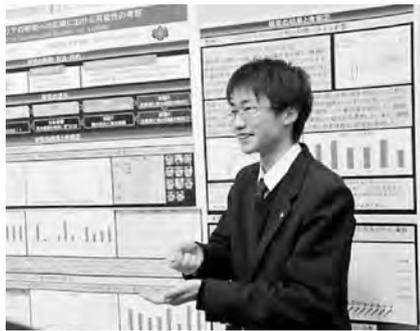
本校のSSH活動は、「G E Tプロジェクト」(Global Explore, Tsukuba)の3つプログラムで構成）として組み立てられています。そして、筑波大学と茗溪会からは多大なご支援をいただいております。お陰様で合格点をいただくことができました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

評価とともに、今後に向けた課題等もいただいておりますので、引き続き努力を重ねてまいります。ここでは、3年間の成果として見えてきたところ、生徒達の変化についてご紹介いたします。

科学研究コンテストなどへの出展と受賞

生徒達は、さまざまな科学研究コンテストや発表会に、積極的にチャレンジするようになりました。そして、高い成果もあげています。

- (1) 高校生科学技術チャレンジ(JSECC) 2つの研究が受賞。①「審査員奨励賞」 高校3年・バドミントン部、研究は本校総合学習「個人課題研究」の一環として行われたもの。テーマは「発光バクテリアの照明への応用における可能性の考察」。5月米国で開催されるインテル国際学生科学技術フェアに日本代表として参加することになりました。②「花王特別奨励賞」 高校3年3名、科学部生物班、



身振り手振りを交えて発表。
「審査員奨励賞」受賞(JSECC2013)



つくば科学フェスティバル

「色水の科学」と題した実験。紫キャベツ、レモン、アンモニア水などを使い、色の変化をみる。指導しているのは生物班の中学生部員。



サイエンス・アゴラでの発表

「私は文系の発表でしたが、他校の発表者や来場者の方がたがみな真剣に聞いてくださいました。いただいた意見が役立ち、その後の研究がうまく進みました。」

- テーマは「タマネギの体細胞分裂にリズムはあるか」細胞と遺伝子からのアプローチ」。
- (2) 日本学生科学賞 「入選2等」中学3年、科学部、テーマは「ソリトンの研究」。同生徒は、県科学研究作品展でも「県知事賞」受賞。
- (3) 日本古生物学会高校生ポスター発表 「奨励賞」 高校2年、水泳部、「個人課題研究」。テーマは「つくば周辺の古環境を探る」小野川から産出する貝化石からの古環境推定」。更新統という地質時代のヒトデ化石を発見(国内4例目)、学会での発表となりました。
- (4) 科学オリムピックへのチャレンジ SSH指定以来関心が高まり、多くの生徒達が様々な分野にチャレンジしました。平成25年度では、物理・生物・地学・地理・数学・ジュニア数学の6分野にチャレンジしました。一次予選突破も厳しいところではありますが、生物では出場3名中1名が優良賞を受賞、地学では1名が本選進出を果たしました。

他にも、ロボカップジュニアジャパン(サッカーAオープンで3位)、数学甲子園(本選進出・全国30位以内)、衛星設計コンテスト(最終審査進出)、千葉大学主催高校生研究発表会(千葉大学長賞・「次期流星電波観測ソフトウェアの開発」など、全国級コンテストや発表会に積極的に参加するようになりました。

プレゼン積極参加、さらにスキルアップ
プレゼンテーション力の重要さを認識し、もっと高めたいという気持ちも生徒達の中に着実に広がってきました。プレゼンのチャンスがあると、意欲的・積極的に参加したいと申し出る生徒が増えてきました。そして、実際のプレゼンにも、発声やジェスチャーなど聞き手の注目を集めるくふうがみられ、良い評価もいただけるようになってきています。

11月、東京の科学未来館で開催された「サイエンス・アゴラ」で、14名の生徒がポスター発表をしました。ここに参加した生徒は、科学部員といった生徒ではなく、高校2年時に全員が行っている総合学習である「個人課題研究」を発表してみたいと意欲を示した生徒達です。地元つくば市で行われる「つくば科学フェスティバル」(11月実施)には、科学部から物理班、化学班、生物班、地質班が毎年参加しています。部員達自身もこのイベントを楽しみに出し物の実験準備をし、来場者の小学生らに実験の楽しさを伝えていきます。

全校生対象に行うアンケート結果からは、研究者になりたい、科学技術に関わる仕事がしたいという生徒の割合が増えていることが分かりました。他の回答からも、多くの生徒達に、意欲的で前向きな意識を育てていることが見えるようになりました。

会費完納会員の皆さまへ

平成26年 4月15日

一般社団法人 茗溪会
理事長 江田昌佑

平成26年度『茗溪フェロー』 ご協力のお願い

茗溪会が新法人としてさらに発展・進化していくために、東京教育大学等前身諸学校から筑波大学にわたる多様な世代を結び、教育界だけでなく広く実業界に活躍する卒業生との地域・職域をこえた連携を強化することを目的として、「茗溪会拡充キャンペーン」を推進し、その一つとして会費完納会員を対象として「茗溪フェロー」を創設いたしましたところ、昨年は1,300人を超え、合計約600万円のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

完納会員の皆さまには、35年間にわたり茗溪会へのご支援をいただき、これまで本会を支えていただきましたことは、誠に感謝に堪えません。

茗溪会は筑波大学や在学生、さらに新しい卒業生に一層の支援をすることは勿論ですが、本会の老・壮・青の力を集めて大きく発展することを期しています。そのためにも、皆さまには本年度もご協力をお願い申し上げる次第でございます。

「茗溪フェロー」の募集要項

既に会費を完納した会員の皆さまに呼びかけて「茗溪フェロー」として皆さまからの寄付を仰ぎ、今後の茗溪会の運営に寄与していただくことを目的といたします。

- 1 寄付金 1口 2,000円/年間
- 2 支払い方法 口数の選択 1口以上
同封の払込取扱票に所定事項をご記入の上、郵便局窓口またはATMから送金してください。
会員番号は必ず記入してください。
(お送りした封筒の宛名に記載してある8桁の番号)
- 3 納入口数に応じて感謝状及び記念品を贈呈するとともに、季刊誌『茗溪』誌上にお名前を掲載いたします。

季刊誌『茗溪』夏号への 誌上名刺交換掲載ご協力のお願い

茗溪会では、季刊誌『茗溪』正月号(1080号)に、各地域・職域の会長・支部長・校長の皆さまに「年賀名刺交換」をお願いしたところ、79件のご応募をいただき、掲載いたしました。次号(1081号)に『暑中見舞』の名刺交換を会員の皆さま全員にお願いして、掲載致したいと存じます。

下記の要項により、ふるって、ご応募下さいますよう、お願い致します。

記

◆掲載方法

季刊誌『茗溪』夏号(1081号)誌上
上段に「暑中お見舞い申し上げます。平成26年夏」のタイトルを標記致します。

◆掲載対象

茗溪会等の理事・監事・代議員、各地域・職域の代表者(会長・支部長・校長等)をはじめ、会員の皆さまにお願いします。

◆掲載内容

支部等であれば、組織者・代表者名を、個人であればお名前・住所・連絡先(電話番号・メールアドレスなど)・職名・卒業年・卒業学科・学類などから、スペースに入る範囲でお願いします。

◆掲載文の連絡方法

FAX またはメール等で本部事務局宛にご連絡下さい。

◆掲載協力金

1件につき10,000円をご協力下さい。
協力金は本部事務局までご送金下さい。

◆原稿等の締切り

平成26年 6月13日(金)

◆連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
茗溪会 事務局長 田中正造
TEL 03-3941-0136
FAX 03-3941-7674
E-mail info@meikei.or.jp

*印刷屋からゲラが出てまいりましたら、お送りして、確認していただきます。

今関 豊一	井深 信男	伊平 保夫	猪股 功忠	井上 敦子	稲毛 陽一	伊藤 宏	伊藤 哲郎	伊藤 義博	糸仙 二郎	市村 操一	泉谷 徹	石渡 和実	石川 勝教	石川 尚子	石井 みさ	石井 八恵子	石井 昭	井沢 弘児	池田 耕三郎	生井 栄一	五十嵐 耕一	飯田 文吉	飯田 稔	新井 充司	阿部 素直	阿部 生雄	浅野 義尋	浅井 太	秋葉 健三	赤堀 正宜	赤川 彰彦	青木 孝雄	阿江 通良	相場 了	相沢 実	相沢 利一	逢沢 勝美						
小川 佳代子	岡本 京子	岡村 雅彦	小鹿野 友平	大原 律夫	大西 要	大谷 悦久	太田 邦夫	大下 専一	大澤 良	大沢 修	大河内 信弘	大熊 廣明	大木 真理子	大木 都起子	大河原 皓規	大川 義一	大勝 信明	大岡 久恵	大石 英幸	大石 謙亮	海老原 利子	勝又 裕子	勝又 宏	勝山 元照	加藤 信哉	加藤 正幸	加部 雅之	上条 博子	神谷 和行	神谷 眞理子	神谷 眞理子	龜田 明	萱原 昌二	河合 末治	川嶋 鈴乃	川嶋 卯太郎	川田 孝一	川端 春生	川村 美弥子	神田 民枝	菅野 捷寿	菊地 隆男	岸川 章修
坂本 浩章	坂本 弘	坂田 信久	酒井 康	三枝 清一	斎藤 隆	斎藤 健治	斎藤 興哉	近藤 照倫	小山 文雄	戸本 文雄	小松崎 八寿子	小林 茂正	後藤 千恵子	後藤 直和	後藤 恒顕	古藤 高良	古藤 昭子	児玉 輝之	小坂 悦夫	合田 浩之	小泉 澄夫	小泉 正秋	郡司 寛幸	黒木 淳	倉沢 栄吉	熊谷 浩	久保田 孔炳	楠山 三香男	柳部 淨義	草柳 茂	清原 洋一	木村 末熊	木原 陽子	北沢 忠	北沢 和正	岸本 重富							
鈴木 秀雄	鈴木 武夫	鈴木 祐一	鈴木 純也	鈴木 久	杉山 文彦	進藤 房枝	神宮寺 誠	白川 兼悦	下坂 毅	清水 弘幸	島田 正好	嶋田 和人	柴田 真希子	柴田 茂	柴田 淳	志手 典之	重田 親志	塩井 敏治	澤村 省逸	猿谷 九龍	佐藤 賢	佐藤 信仁	佐藤 潤子	佐藤 宣踐	佐藤 吏	佐藤 勲	佐藤 義太郎	佐藤 敬助	佐藤 成明	佐々木 明	佐々木 洋	佐々木 武人	笹川 和輝	坂本 透	坂本 寛	坂本 政美							
竹之内 恒男	武田 良実	竹島 政信	竹居 高嶺	武井 勇	瀧澤 文雄	瀧 弘之	高森 秀蔵	田上 修	高橋 正利	高橋 誠	高橋 浩司	高橋 縁	高橋 定之	高橋 玲子	高野 真佐子	高野 清純	高野 だいわ	高崎 修	高木 重信	高岡 正幸	大堂 宏	園木 洋二	関根 令夫	関島 昭三	関口 輝	関口 莊次	関井 秀郎	隅田 有香	砂塚 定幸	砂子 壽弘	鈴木 教元	鈴木 安孝	鈴木 奈保子	鈴木 弥八郎	鈴木 泰全	鈴木 英全							
中川 知秋	中川 雅史	長尾 進	永井 實	仲 暎子	鳥海 玲子	豊崎 永英	外山 滋比古	時園 信吾	土岐 栄	照屋 常吉	寺中 平治	手島 昇	鶴岡 信良	坪内 薫	角田 亮	角田 徹	津野 潤三	筒井 豊祐	土屋 道生	津田 房枝	辻 功	塚田 理恵	千葉 末治	千田 捷熙	田村 周山	田村 英樹	種子 真一	田中 章夫	田中 信一	田中 丈比古	田中 敏生	田中 和	立山 隆治	竹村 優一	建部 孝子	武部 尚美	竹花 強						
久田 健一郎	伴 弘毅	林 一六	埜 博	波多野 久	長谷川 三郎	長谷 好男	橋本 直美	萩原 信一	萩元 育夫	野村 京治	登坂 忠夫	野々宮 徹	野島 浩司	野口 雅之	野口 道子	沼田 徹	西山 驍	西野 章代	西田 彰	西田 鉦子	西澤 和平	西澤 和	西垣 完彦	奈良 昭男	浪越 一喜	浪越 信夫	名取 雅幸	那須 栄八郎	名見 耶明	中山 礼吉	中山 家久	中村 通男	永田 友市	中田 英雄	中園 靖雄	永瀬 正臣	長島 勝	永窪 啓治					
三浦 幹夫	丸橋 信之	松元 美明	松本 武司	松原 達哉	松永 祐樹	松田 英臣	松島 由起子	松本 嘉幸	松下 魏三	正木 隆	牧野 健士	本間 慎司	本田 峯子	本宮 健次郎	堀井 常三郎	堀 徳郎	細谷 俊一	星野 保雄	古山 洋一	古澤 邦夫	古沢 一朗	藤本 嘉彦	藤谷 秀道	藤田 和子	藤田 正二	福田 禎治	福嶋 綾子	廣橋 義敬	廣瀬 昭夫	広江 敏江	平根 厚	平戸 郁夫	平田 和彦	平川 信夫	平賀 徹	兵頭 一之介	日比野 文一						
柳澤 二郎	谷中 齊	安永 真澄	屋井 征雄	森山 泰夫	守屋 正彦	森元 光保	森本 裕康	森永 混	森田 賢二	森内 喜三雄	脇坂 正博	元嶋 玲子	元嶋 雅彦	最上 隆二	村上 勤治	村松 敏雄	村田 直樹	村田 茂	村上 芳彦	村井 正彦	武藤 直人	武藤 幸男	牟田 清	牟田 節子	三好 俊文	宮前 昇	深山 昌	宮嶋 孝也	宮下 憲	宮口 春雄	三船 新次	南 隆志	溝口 繁美	水本 節生	山口 直行	山口 松太郎	水谷 義郎	水沢 政雄					
		渡辺 浩光	渡部 聡	渡辺 功	渡辺 満孝	渡辺 清二	渡辺 洋男	脇坂 高峰	脇坂 孝親	脇坂 寿夫	脇坂 隆	若杉 明宏	若杉 明宏	与田 康子	吉村 隆	吉野 正敏	善浪 弘善	吉田 昭久	吉田 秀一	横山 潔	横地 清	横内 星美	山本 正三	山本 岩夫	山本 哲央	山本 敬三	山本 隆久	山村 平	山部 紘	山下 恭吾	山崎 哲彦	山崎 直行	山内 研二	山内 健太郎	矢野 吉弘	梁瀬 吉弘							

◆東茗会

とき 平成25年11月23日(土)
 ところ 池袋駅西口「北海道 池袋西口店」
 東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、筑波大学の4校にわたる親睦の会です。主に東洋史を専攻し、都内の高校で世界史を教えている現役の教員やOBが年に1回集まり、学生時代の思い出話から昨今の高校教育の話題に花を咲かせています。今回は参加者が少なくなりましたが、30代から70代にかけて世代を超えた楽しい懇談が夜遅くまで続きました。 幹事 浦部利明



◆東京高等師範学校理科一部(数学科)(しんがり会)

とき 平成25年9月27日(金)
 ところ 茗溪会館
 私たちは東京高師を1952年(昭和27年3月)に4年生を卒業した者です。最後の卒業生ですから(しんがり会)の名前で毎年同窓会を茗溪会館でしてきました。83才になって、今年最後の同窓会を実施しました。毎年1人減り2人減りして、出席者も減り、今年は8名になりましたので、最後のしんがり会にしようと云って別れました。大部分の仲間は、東京、神奈川、奈良、山形など有名高校の校長または副校長をした者ばかりです。 報告 松原達哉(元・筑波大学大学院教授(心理学))



後列左より) 森 鉦雄、志村宗孝、大野智弘
 前列左より) 小池一郎、松原達哉、坂本雄一、堀越 進、松山晃一

◆昭和41年農学部林学科入学クラス会

とき 平成25年12月17日(火)
 ところ 小淵沢
 クラスメイトの別荘完成祝いを兼ねて、クラス会を開きました。平日のため、参加者が六人になりました。小淵沢駅は在学中、演習林のある野辺山駅に向かう為の乗換駅で、目の前に「甲斐駒ヶ岳」聳えるクラスメイトには思い出の場所です。野辺山演習林での実習の度に、有志でハヶ岳などよく登山しました。当時の降るような星空と、切り紙細工のような紅葉などに話題がめぐり床に入ったのが翌朝の3時を過ぎてしまいました。 執筆 西村伸平



◆三六会(昭和36年東京教育大学農学部林学科卒)

とき 平成25年11月17日(日)
 ところ 水月ホテル鷗外荘(上野)
 参加者 16名
 全員が後期高齢者となった今回、現存者24名のうち、16名の出席のもと開催。出席者全員、少しも年を感じない程元気でした。まだまだ会は続きそうです。 桐の葉を歌って散会しました。 幹事 田村正義



著書紹介の掲載について

季刊誌「茗溪」には、茗溪会員の皆さまの著書を紹介しております。先輩・後輩・友人などの著書を、25字×18行程度の紹介文にして茗溪会事務局へ送ってください。

なお、書名、著者およびご本人の卒業年度、学部・学科<学群・学類>、本の大きさ、ページ数、価格、発行所等を付記して下さい。

送っていただいた原稿は、掲載検討会議ではかたうえ、できるだけ多く紹介しようと考えております。

また、紹介した本を永く保存するため、事務局に一冊ご寄贈くださるようお願い致します。

「桐の葉のつどい」の掲載について

以下の要領で写真と原稿をお寄せ下さい。

(写真) フィルムカメラ、デジタルカメラのいずれで撮影したもので結構です。紙焼きでも、デジタルカメラの場合は、データでメールでお寄せいただいても結構です。

(文章) グループの名称、お集りになった「とき」「ところ」を別項にして、必ずお書き下さい。会の模様を紹介する文章は31字×5行以内でお願い致します。

第二十九回 教職受験対策研修会から

「以前から茗溪会の方々に、教職受験のご指導をしていただきたくと考えておりましたので、今回の研修会は貴重な機会に嬉しかったです。私は教員採用試験で必ず課される論文が苦手なので、今後とも指導をよろしくお願ひします」(医学専門学群看護学類 福井県就職志望)

「先生方や教員採用試験に合格された先輩方のお話や豊富な資料などは、とてもためになりました。ありがとうございました。」(理工学群 数学類 埼玉県就職志望)

「これまで教員採用試験を受ける筑波大学生に接する機会がほとんどなかったが、今回この研修会で多くの仲間が出来ました。研修会を開催して下さった茗溪会の先輩の皆様に感謝しながら、採用試験に向けて、しっかりと準備をしていきたいと考えています。」(博士前期課程人間総合科学研究科 熊本県 保健体育就職志望)

以上は「教職受験対策研修会」に参加した筑波大学の学群生及び大学院生の感想の一部です。

就職を希望する筑波大学生に対して、本会と財団法人筑波資金財団が主催する「教職受験対策研修会」が、三月十日から十二日までの三日間「筑波研修センター」で開催されました。参加者は五十六名でした。

【第一日】

*開講式には筑波大学キャリア支援室長守屋正彦氏(51 教大芸術53院修美) 筑波大学学生部就職課長久保田優氏に出席していただき、励ましの言葉や、いかに全国の教育関係者が筑波大学の卒業生に期待しているか等について話を伺いました。

*講義Ⅰ「教員採用試験の分析と対策」清水進一氏(42 教大数学) 教員採用の概要と、受験対策として公立学校、私立学校の採用試験の概要を、詳細なデータに基づいて話していただき、その受験対策として、筆記試験・論文・面接・模擬授業について指導されました。

*採用試験合格者体験発表 (本年度、合格した先輩)

千葉県 中高(英語) 石川友理さん(人文文化学群)

千葉県 中学(数学) 椎名恵美さん(理工学群)

東京都 中高(美術) 平田 実さん(教育研究科)

山形県 高校(国語) 今 輝さん(人文文化学群)

茨城県 高校(数学) 藤田貴久さん(数理物質研究科)

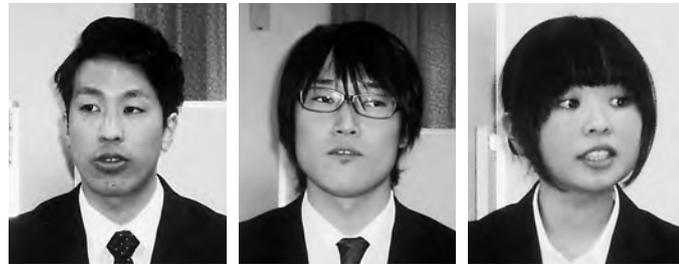
東京都 中高(数学) 砂原崇志さん(情報学群)



藤田貴久さん

平田 実さん

石川友理さん



砂原崇志さん

今 輝さん

椎名恵美さん

*論文作成について高原将(事務局長代理)が要点を説明しました。

【第二日】

*講義Ⅱ「我が国の教育の今日的な課題」佐藤 徹(46 教大経済) 今日の課題として、教育再生会議のこれまでの提言の概要、教育再生実行会議の今後の検討課題、今日の教育改革の背景などについて話していただき、文部科学省の教員養成企画室長の佐藤弘毅氏の講演内容も紹介していただいた。



集団討論の実演をする
右から平田、砂原、石川
大柴、藤田、椎名さん

【第三日】

*個人面接 学生宿舎所長の武井秀一氏(51教大化学) 桐蔭横濱大学の飯田國雄氏(44教大院博)と高原が面接官となり実施しました。今さんを除く体験発表の五人に加えて大柴萌さん(人間学群 東洋大 牛久高校 国語)がチューターとして、受講生に個人面接の答え方等をアドバイスしました。

*集団面接 受験生数人のグループに対して面接を実施しました。ここでもチューターがアドバイスしました。

*集団討論の実演 六人のチューターに、明日実施する集団討論の実演を行ってもらいました。

*集団討論 数人で、用意されたテーマについて70分間ほど討論しました。まず、各人が与えられたテーマについて意見を述べ討論に入りました。ほとんどの参加者が初めての経験でしたが議論は白熱し、良い体験であったとの声が聞かれました。

*論文指導 初日に書いた論文を、班ごとに分かれて、まず本人が音読し意図するところや考えを述べ、指導者からのコメントを聞くという形式で実施しました。参加者からは「大変 役にたった」との声が多く聞かれました。その後、閉校式で、研修会を終了しました。

茗溪会事務局 高原 将(38教大東史)

【各都道府県教育界の諸先輩にお願い】

各都道府県の採用試験情報や教育行政の最新情報について先輩方を訪ねて教えをいただくように指導しています。教員志望の筑波大学生から相談がありましたら、論文の指導も含めて、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。(研修担当)

追 悼 録 (敬称略)

仲谷 俊三 昭11農教 25・9・5
 〒501-6316 羽島市中下町市之枝1-99 娘 仲谷 幸子
 梅澤 敏夫 昭15大教 25・10・29
 〒330-0065 さいたま市浦和区神明1-26-4 長男 梅澤 喜夫
 青戸 兵司 昭17文一 25・11・12
 〒261-0003 千葉県美浜区高浜4-5-1-204 長女 布留川紀子
 石川 洋三 昭17理二 25・12・20
 〒125-0042 葛飾区金町3-26-9 長男 石川 一郎
 岩永 淳 昭17理二 25・12・13
 〒811-1352 福岡市南区鶴田4-23-13 妻 岩永サナエ
 宮川 茂夫 昭17農教 25・12・5
 〒914-0065 敦賀市松栄町2-18 長男 宮川 尚憲
 宮前 昇 昭18文四 25・11・26
 〒368-0035 秩父市上町1-17-5 長男 宮前 晃
 高塚 輝雄 昭18理一 26・3・8
 〒420-0886 静岡市葵区大岩1-3-3 三女 冨田 敦子
 長崎文太郎 昭19傷軍国漢 25・5・24
 〒283-0802 東金市東金1663 長男 長崎 文栄
 水山 高幸 昭22大地 25・11・17
 〒618-0081 京都府乙訓郡大山崎町下植野梅ヶ畑16 妻 水山 秀子
 原田 源次 昭22体専 25・6・9
 〒028-6101 二戸市福岡下町11 妻 原田八千代
 菊地 英 昭22体専 25・10・30
 〒301-0824 龍ヶ崎市中町2850 長男 菊地 通雄
 大隅 芳秋 昭23大教 25・12・6
 〒177-0042 練馬区下石神井1-3-28 二女 大隅 暁美
 井上 晴夫 昭23大動 25・12・13
 〒243-0014 厚木市旭町5-41-27 長女 遠藤 睦子
 森 主税 昭23体 25・5・5
 〒313-0014 常陸太田市木崎二町3783 長男 森 主計
 長南 光男 昭23芸 26・1・4
 〒165-0025 中野区沼袋3-24-15 長女 長南 裕美
 大原 久雄 昭23臨教 25・7・11
 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町3-26-1 妻 大原 房子
 村松 次郎 昭23体専 25・10・31
 〒395-0025 飯田市東中央通り3244-5 長男 村松 文次
 栗沢 裕治 昭24文五 26・3・2
 〒399-3202 長野県下伊那郡豊丘村神稲7497 長男 栗沢 紀夫
 渡邊 利夫 昭24理二 26・1・12
 〒321-3702 栃木県芳賀郡茂木町飯野745 長男 渡邊 健一
 武田 輝彦 昭24芸 25・11・26
 〒241-0012 横浜市旭区西川島町27-3 妻 武田 智子
 岡 隆夫 昭24芸 25・12・7
 〒511-0507 員弁市藤原町上之山田959 長男 岡 久志
 今坂 晃 昭25大國 25・11・17
 〒214-0036 川崎市多摩区南生田1-9-13 妻 今坂 愛子
 三浦 文男 昭25理一 25・10・31
 〒666-0129 川西市緑台2-5-44 妻 三浦 路子
 廣田 幸吉 昭26芸 25・7・14
 〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町569-1-7-205 長女 土岐 和子
 伊藤 稔 昭26文二 25・10・24
 〒384-0037 小諸市押出625-54 妻 伊藤 一子
 小川 治良 昭26文四 26・3・6
 〒254-0061 平塚市御殿2-1-16 妻 小川智恵子

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・ 遺族住所・氏名

落合 壽 昭26文四 26・1・19
 〒231-0831 横浜市中区矢口台81 長女 菅宮 恵子
 館野 正幸 昭26理一 25・5・21
 〒329-4411 栃木市大平町横堀461-2 妻 館野 洋子
 関 勤 昭27大教 25・1・9
 〒167-0043 杉並区上荻4-10-5 長男 関 哲郎
 大谷 清 昭27文一 25・5・11
 〒156-0044 世田谷区赤堤1-22-6 妻 大谷 恵子
 山本 泰永 昭27文一 25・3・3
 〒183-0003 府中市朝日町1-32-110 妻 山本 悦子
 高橋 道彦 昭27理三 25・8・14
 〒409-0114 上野原市鶴島3388-3 長女 菊地 直子
 佐藤 高明 昭28大國 25・12・20
 〒770-0863 徳島市安宅1-6-12 長男 佐藤 明彦
 三石 辰雄 昭28教大教 25・10・12
 〒177-0033 練馬区高野台3-30-7 長男 三石 貴哉
 井部 文哉 昭29教大心 25・12・28
 〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町2-24-32 妻 井部 真季
 熊谷 久 昭30教大体 25・8・21
 〒165-0025 中野区沼袋2-28-11 妻 熊谷 静子
 赤木 三郎 昭31教大地 26・2・5
 〒680-0944 鳥取市布勢357 長女 赤木里香子
 赤松 英男 昭31教大体 25・11・25
 〒468-0020 名古屋市天白区平針南2-204 妻 赤松 芙蓉
 小池 保雄 昭31教大体 25・7・18
 〒870-1133 大分市宮崎台3-1-36 妻 小池 信子
 早川 重雄 昭32教大國 26・1・16
 〒349-0215 白岡市千駄野805 タンドレス102 長男 早川 周一
 馬場 あや 昭32教大化 25・9・23
 〒191-0043 日野市平山3-31-8 夫 馬場 茂雄
 五百澤智也 昭32教大地 25・12・14
 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮8572-8 妻 五百澤協子
 吉田 鵬次 昭32教大農経 25・5・27
 〒028-3614 岩手県紫波郡矢巾町又兵衛新田6-39-13 妻 吉田 和子
 影山 博之 昭33教大農化 25・6・16
 〒270-0021 松戸市小金原7-31-1 妻 影山美智子
 伊藤 忠好 昭33教大総農 26・1・16
 〒959-4507 東蒲原郡阿賀町両郷甲1158 長男 伊藤 憲男
 三平 武男 昭34教大数 25・10・25
 〒108-0071 港区白金台3-10 長男 三平 裕之
 築地 美孝 昭34教大体 25・11・17
 〒202-0004 西東京市下保谷4-6-6 妻 築地 彌生
 見戸 長治 昭35教大健 24・9・19
 〒719-1155 総社市小寺2033-2 妻 見戸 邦子
 金子 彰男 昭36教大漢 25・9・17
 〒950-3375 豊栄市早通南3-9-7 妻 金子 トシ
 高岡 晴朗 昭36教大英 26・1・2
 〒252-0303 相模原市南区相模大野9-22-21 妻 高岡ミツ子
 斎藤 英臣 昭38教大英 25・6・15
 〒030-0951 青森市戸山赤坂78-227 妻 斎藤貴美子
 窪田 孝美 昭41教大数 25・7・23
 〒399-0214 長野県諏訪郡富士見町落合9626-7 妻 窪田美美子
 萩原 出 昭51教大体 25・7・30
 〒260-0005 千葉市中央区道場南2-12-6 妻 萩原みどり

本部だより

株茗溪サービス閉店のお知らせ

茗溪会館B1フロアで営業中のレストランが、3月31日をもって閉店しました。それに伴い会館1〜4階の貸し室業務につきましても停止となりました。会員の皆さまにはご不便をおかけしますが、ご理解ください。

なお、茗溪会事務局は従来どおり茗溪会館5階で執務しております。

茗溪会拡充キャンペーン

平成25年度の茗溪フェローへの応募は、おかげさまでたくさんのご応募をいただき、3月13日現在で、年度総計で1,300人を超えました。ご協力に感謝申し上げます。すでに完納となった会員の皆さまには、35回の会費納入により永年にわたる会運営を支えていただきましたが、それに加えて、茗溪フェローという形で、年2,000円を一口とする新たなご協力寄付金を年会費の形でお願いしているところでございます。第2年目に入りませんが、今年度も引きつづきご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

なお、会費35回目をこえて納入していただいた方もたくさんいらっしゃいますが、茗溪フェローの会費として繰り込んでおりますことをご了承下さい。

茗溪会拡充キャンペーンでは、名刺交換広告への応募をお願いいたしておりますが、こちらの方も全国各地からご協力いただきました。とくに、各支部役員の皆さまから、まとまって応募いただく件が多く、たいへん助かっております。今年度も暑中見舞いと年賀などへのご協力をお願い申し上げます。

代議員選挙の結果

平成26・27年度の茗溪会の代議員を決めるための代議員選挙で、110名の候補者が出揃いました。12月20日選挙管理委員会により、無投票当選として次期代議員の名簿が確定しました。名簿を本誌上に発表致しました。

大学と茗溪会の懇談会ひらく

2月18日(火)、恒例の筑波大学と茗溪会との懇談会が開かれました。この会には、大学側から清水一彦副学長はじめ学群長・類長19名、茗溪会側から江田昌佑理事長について話し合いました。

特に、新入会員勧誘、筑波大学支部賞、大学院修了者対象の茗溪賞などについて忌憚のない意見交換をしました。

なお、懇談会の冒頭で、茗溪会から大学に対して、助成金の贈呈を行いました。

卒業予定学生の就職活動にご支援を

来春卒業予定の学生のために、諸先輩のご指導ご支援をお願いいたします。

【問い合わせ・連絡先】 筑波大学学生部就職課

企業・団体関係 電話 029-853-6091
教員・公務員関係 電話 029-853-2249

就職受験対策相談窓口

茗溪会筑波事務所では、大学と連携して就職を目指す学生の「相談」を受け付けています。申し込みは左記へ。

電話 029-850-1044

kyousyoku@un.tsukuba.ac.jp

お詫びと訂正

前号(平成26年正月号)で誤りがありました。

お詫びして訂正・追記いたします。

P 5 上から3段目 右(正) 新木康稔(誤) 新井康稔
P 22 瑞宝中綬章 (正) 向井康雄(誤) 向井隆雄
P 23 桐の葉のつどい

(正) 東京高等師範学校理科二部昭和24年3月卒業
(誤) 東京高等師範学校理科一部昭和27年3月卒業

編集後記

・特集は平成25年度の「茗溪賞」受賞者の中から、甲冑師の橘さんをはじめとする「相馬野馬追」の関係者をつくば市の「ゆいまつり」の関係者を現地に訪ねて、伺ったお話や見聞した事等を「ふるさとの人びとを結ぶ伝統行事とまつり」としてまとめました。
・新しい連載として「大学は今」と「茗溪東西南北」をはじめました。ご期待下さい。

お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

表紙の言葉―表紙デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

撮影地点の筑波大学病院新棟、けやき棟最上階(12階)には眺望を楽しめるように、ラウンジが設けられている。例年、入学式に合わせるように学内外の桜は満開となる。

平成26年4月15日発行

編集兼発行人

田中正造

発行所

一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二二

TEL 〇三三九四一〇一三六

FAX 〇三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷所 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO

Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：執行役員秘書室長 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

OZONE 大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

- ☆ 24時間営業
- ☆ お迎え料金無料
- ☆ カード利用 OK!
- ☆ 貸切バス事業者より
安全性評価認定(★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

日本酒 本格焼酎 来福醸造元
来福酒蔵株式会社

日本酒 来福
真向勝負



純米吟醸

桐の花酵母を使った
筑波大学の酒

桐の花

ご注文は
〒300-4546
茨城県筑西市村田1626
TEL 0296(52)2448
FAX 0296(52)6448
e-mail/
fujimura@raifuku.co.jp



smart wellness CITY

スマートウエルネスシティ

健幸づくりは
「まち」
づくりから



つくばウエルネスリサーチは
高齢化が進んでも、そこに暮らすことで
健幸になれる「まち」
“Smart Wellness City”の
実現を支援しています!

※「健幸」=身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ
安心安全で豊かな生活を送れること



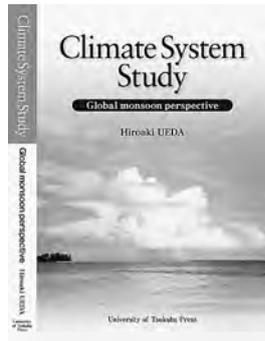
株式会社つくばウエルネスリサーチ
〒300-0817 茨城県つくば市研究学園6街区9画地
研究学園スクエアビル5F

Smart Wellness City 首長研究会事務局

TEL: 029-849-5800 FAX: 029-849-5800

新刊案内

2014年3月25日刊行



Climate System Study -Global monsoon perspective-

by Hiroaki UEDA

『気候システム論—グローバルモンスーンから読み解く気候変動—』
 (当出版会より2012年3月刊行)の英文版。一部の図版は最新データを元に修正。

◆今後の刊行予定◆

- サービスサイエンスとはじめ
 — 数理モデルとデータ分析によるイノベーション
- もっと知りたい! 「科学の芽」の世界 PART 4

A 5 判変形・上製/228頁/
 3,500円+税
 ISBN978-4-904074-31-2 C3044

<p>一般社団法人 食医同源之会 〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-43-6 オリムピアビル6F TEL&FAX 03-3654-2410 理事 渡邊 悟 (56筑二農・62筑院博農) http://syokuidougen.main.jp</p>	<p>堀内法律事務所 〒305-0025 つくば市花室1011番地 TEL 029(857)4411 FAX 029(857)4412 所長・弁護士 堀内 昭三 (35教大法政)</p>	<p>相続・法人設立・ビザ etc... 行政書士 高谷真一事務所 〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号 TEL&FAX 029-821-8177 代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)</p>
<p>海城中学・高等学校 〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1 電話 03-3209-5880 校長 水谷 弘 (昭40教大数)</p>	<p>経営・労務・年金etc.コンサルタント 福岡経営労務事務所 〒125-0042 葛飾区金町3-27-3 TEL 047(361)2618 FAX 047(361)2643 所長 福岡 一雄 (32教大法政) 社会保険労務士</p>	<p>聖徳大学 文学部 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 電話 047-365-1111(代表) E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp 学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)</p>
<p>株東京科学光芸社 茗溪会館写真スタジオ 〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館3階 TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392</p>	<p> 株式会社 十和観光 代表取締役 井坂信洋 URL http://www.juwa.com E-mail travel@juwa.com 〒300-2451 茨城県つくばみらい市茨輪254 TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220</p>	<p>スポーツ選手、文化人のマネジメント&キャスティング トレーニングジム、鍼灸整骨院、デイサービスの運営 株式会社 スポーツカンパニージャパン 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-17-8 京ビル5F TEL 072-452-0030 http://tachiryugym.com 代表取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)</p>
<p> 永井建設株式会社 〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺3-1-7 電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940 営業部長 高野 力 (昭48教大木工)</p>	<p>印刷・製本までトータルに対応 株式会社 ケエスアイ 東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-6-7 九段NIビル2F TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669</p>	<p> 株式会社 長谷工 コーポレーション 〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号 電話 03(3456)1578 執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)</p>

筑波での宿泊・研修に

ご家族で、お仲間
 最大収容180名、お一人3,600円から/(消費税率引上後、料金改訂予定)
 茗溪会員とご家族に割引あり
 研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
 シングル145室 ツイン5室 和室5室/研修室2室 (120・40名)
 和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)
 館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

アクセス 秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
 ●バス/「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車
 徒歩8分 ●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人 筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
 TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886
<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail:center@meikei.or.jp



人生のパートナーを大切に考えるあなたは

結婚への 近道を見極める 力があると 信じます。

ご婚約

検索

“愛・ボード”にアクセス。
実際のご婚約カップルの声、スタッフの姿勢。
人生のパートナーを大切に考えるあなたへの情報です。



キュービッドは慶應義塾大学OB会の親睦パーティから発足して33年。結婚を誠実にお考えの方限定の会員制クラブです。

■ お問い合わせはお電話でもどうぞ。

☎ 0120-0333-82



■ 入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

● 男性 25～45歳、定職におつきの方。 ● 女性 20～40歳

※ 入会に際して審査があります。

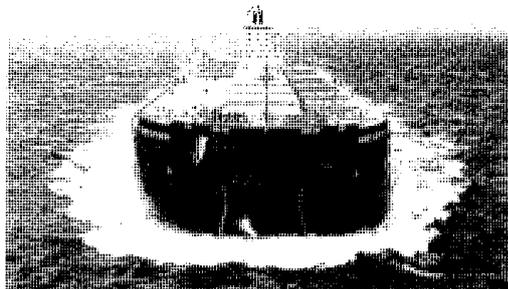
日本の心を受け継ぐ結婚



Cupid Club

〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-11ヒューリック銀座数寄屋橋ビル7F 03-5524-3555 www.cupid.co.jp

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事か見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス
TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp
代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒
現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



桜美林大学
J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758
桜美林大学インフォメーションセンター
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



新しい 生徒指導の手引き

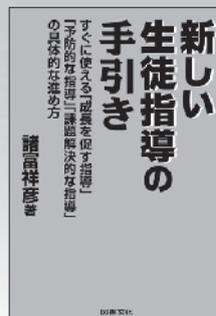
四六判, 232ページ 本体1,800円+税

著者 ■ 諸富祥彦 (明治大学教授, 生徒指導提要の作成に関する協力者会議協力者)

- 発達促進的・予防的な生徒指導として「生徒指導プログラム」を提唱。
- 『生徒指導の手引』(昭和40年刊行・同56年改訂, 文部省) から『生徒指導提要』(平成22年, 文部科学省) に流れる共通点と, 新たに求められた改善点を実践的に解説。
- 教育カウンセリングやガイダンスカウンセリングを生かす生徒指導の充実とは?

大好評! 諸富祥彦の著書

- 教師の悩みとメンタルヘルス 本体1,600円+税
- 教室に正義を! -いじめと闘う教師の13か条- 本体1,400円+税
- 「7つの力」を育てるキャリア教育 -小学校から中学・高校まで- 本体1,800円+税
- 自分を好きになる子を育てる先生 本体1,500円+税



〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519
※本体には別途消費税がかかります。

茗溪学園中学校高等学校

茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

理事長 西野虎之介 (28農経)
校長 柴田 淳 (52体 56院修体)

〒305-8502 つくば市稲荷前1-1
<http://www.meikei.ac.jp> TEL 029(851)6611

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



平成26年度公開行事

- 5月24日(土) オープン・キャンパス
- 6月 7日(土)・8日(日)
桐創祭(文化祭)
- 6月28日(土) 海外生・帰国生対象
学園説明会
- 7月12日(土) 高校受験生対象
学園説明会



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)